

【学校の教育目標】 学びを楽しみ、よりよく生きる人を育てる



子どもが楽しく学び、楽しさから「主体的・対話的で深い学び」な姿が見られている。大切にしたい。



確かな学びから獲得した力でよりよく生きてほしい。

【めざす子ども像】

明るく元気に楽しく学べる子ども

自分のことに自分で取り組む子ども

まわりの人と仲良くする子ども

【各学部教育目標】

聴覚障がい教育部

- 幼稚部 「遊びや生活を通して、心と体と言葉を育て、人とのかかわりを楽しみながら生活する子どもを育てる。」
- 小学部 「学ぶことに興味や関心をもち、生活全般で身につけた言葉の力をもとに、人とのかかわりを大切にして生活する児童を育てる。」
- 中学部 「学力とコミュニケーション能力の向上を図り、人とのかかわりの中で自己理解を深め、社会性のある生徒を育てる。」

知的障がい教育部

- 小学部 「友だちと仲良く遊び、主体的に活動に取り組む児童を育てる。」
- 中学部 「人とのかかわりを広げ、学習や活動に意欲的に取り組む生徒を育てる。」
- 高等部 「社会参加に向けての意識を高めながら、心豊かにたくましく生活する生徒を育てる。」

【学校研究テーマ】

「学びがつながる授業づくり」～1年次～

【研究の重点】

- 各学部の指導者全員が、幼児児童生徒の学習の状況や課題を把握する。
- 指導者間で幼児児童生徒の実態や学びの状況を把握し合いながら、「つながり」を意識した授業づくりの実践を積み上げていく。

I はじめに

今年度は、これまで行ってきた「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの成果と課題を基に「学びのつながり」という視点から授業づくりを行うことにした。

授業づくりにおいては、指導者間で幼児児童生徒の学びを共有していくために、各教育部で作成したシート等を活用し幼児児童生徒の学習状況や課題を把握・整理していく。また、学ぶ内容や目標、手だての在り方を検討し「つながり」を意識した授業づくりを進めていく。幼児児童生徒一人一人が学びの楽しさややりがい、達成感を感じ、学んだことを日常生活に活かすことで、できたという自信や手ごたえにつながると考えている。

「学びのつながり」については、年齢や学年に応じ学習したことを積み重ねていく「縦のつながり」と、学んだことが他の学習や日常生活に広がる「横のつながり」と考え、学ぶ内容の明確化とつながりのある指導計画の作成の必要があると捉えた。指導計画の作成や授業実践については、学習指導要領から幼児児童生徒一人一人の段階の目標を押さえていくことを大切にしながら進めていきたい。

II 研究計画（1年次／3年計画）

（1）年次計画

1年次		2年次		3年次	
方向性の決定	【聴覚部】 ・研究の方向性の決定 ・国語の教科書の確認	つながりのある学びの整理	【聴覚部】 ・教材研究、手立ての充実 ・やりとりの積み重ね	つながりのある学びの実践とまとめ	【聴覚部】 ・教材研究、手立ての充実 ・やりとりの積み重ね ・3年間の研究のまとめ
	【知的部】 ・教科等の選定 ・各学部の研究の方向性の決定		【知的部】 ・学びの履歴シートの活用と見直し ・つながりのある年間計画の整理		【知的部】 ・学びの履歴シートの活用 ・つながりのある年間計画の整理と活用 ・3年間の研究のまとめ
個の学びの把握	【聴覚部】 ・個の課題の把握 ・手立ての検討・共有 ・やりとりの積み重ね	つながりのある学びの整理	【知的部】 ・学びの履歴シートの活用と見直し ・つながりのある年間計画の整理	つながりのある学びの実践とまとめ	【知的部】 ・学びの履歴シートの活用 ・つながりのある年間計画の整理と活用 ・3年間の研究のまとめ
	【知的部】 ・学びの履歴シートの作成 ・個の実態や学びの状況の把握 ・指導者間での共有		【知的部】 ・学びの履歴シートの活用と見直し ・つながりのある年間計画の整理		【知的部】 ・学びの履歴シートの活用 ・つながりのある年間計画の整理と活用 ・3年間の研究のまとめ
授業実践					

Ⅲ 今年度の研究について

1 研究の目的

子どもの学び履歴や課題を把握し、つながりや広がりについて考えることで、子ども一人一人が学びの楽しさややりがい、達成感を感じ、日常生活に生きる力が育まれるようにする。

2 研究の重点と方法

【授業づくりにかかわること】

- (1) 学習にかかわる指導者が、幼児児童生徒の学習状況や課題を把握・整理する。
- (2) 各教科の授業を通して、指導者間で幼児児童生徒の実態や学びの状況を把握しあいながら、学ぶ内容や目標、手だての在り方を検討し、「つながり」を意識した授業づくりの実践を積み上げていく。

【やりとりまとめシートの活用】（聴覚部）

- (1) 幼児児童生徒の授業や日常生活の様子から、幼児児童生徒が言葉を習得する際の課題となっていること（言葉の課題）を的確に捉え、それに対する手立てを考える。
- (2) 授業での幼児児童生徒とのやりとりを書き起こしてシートにまとめ、言葉の課題の捉え方や、そのためにとった手だてについて指導者間で意見交換・共有し、その後の授業に活用する。

【学びの履歴シートの活用】（知的部）

- (1) 学習指導要領に示されている各教科の目標・内容の一覧を基に作成した「学びの履歴シート」（県立米沢養護学校長井校作成「学習内容表」）を活用し、幼児児童生徒のこれまでの学習状況を把握して指導計画作成に生かす。
- (2) 学部の状況に合わせて、教科用図書、知的障害特別支援学校用文部科学省著作教科書（通称「星本」）等を活用し、学習指導要領の段階の目標をさらに細分化したり、授業実践を通して学びのステップアップを考察したりして指導計画や授業づくりに活かす。

3 年間計画

月	研究に関する取組	内容
4	研究全体会①	今年度の研究についての提案 研究学部会
7	公開研修会	「教育活動の充実を目指して」 山形県立山形聾学校校長 庄司美千代氏
1 1	研究全体会② 研究のまとめ	各学部の中間報告
1 2	公開授業研究会	研究概要説明、公開授業、事後研究会
3	研究全体会③	今年度の研究のまとめ 次年度の研究について

<公開授業研究会 公開授業名・助言者>

学 部	授 業	助言者
聴覚障がい教育部 小学部	国語（2年） 「お手紙」 授業者 須藤 由菜	山形県立山形聾学校 教頭 齊藤 順子 氏
知的障がい教育部 小学部	算数（6年） 「いろいろな かたち」 授業者 山科 奈津子	県教育センター特別支援教育課 課長 森 豊 氏
知的障がい教育部 中学部	数学（3年） 「様々なものを棒グラフに表して読み取ろう」 授業者 石川 靖大	山形県立鶴岡養護学校 校長 戸屋 学 氏
知的障がい教育部 高等部	数学（2年） 「身近にあるものの長さを測って表そう」 授業者 関矢 基博	山形大学附属特別支援学校 教頭 片桐 睦 氏